

CTED NewsLetter

Center for Teacher Education and Development, Okayama University



CSTの募集対象が変更されます

1 これまでのCST養成プログラム

岡山CST養成プログラムは、理数系教員(CST)養成拠点構築事業(「CSTおかやま」)として、岡山大学の理工系及び教育系の教員が、岡山県下の教育委員会や教育センター等と協働し、「優れた教育実践を行い、理数教育に関する地域の研修会などで中心的な役割を果たす小中学校教員コア・サイエンス・ティーチャーの養成と、その活動を通じて、小・中学校教員の理数教育における指導力向上を図ること」を目的に、平成22年度から実施している特

別なプログラムです。

岡山CST養成プログラムでは、学生と現職教員向けそれぞれにプログラムを実施していますが、学生向けに関しては、これまで理学部、環境理工学部、農学部、工学部、MPコース、教育学部に所属する1年次生を対象に募集を行い、大学院進学を前提とした4.5年間のプログラム(中級CST)を行ってきました。これは、学生が所属する学部での学業をおろそかにすることなく、小・中学校教員の免許を取得しながら理科の学習指導にかかわる資質・能力を獲得していくことができるようにするためには長期的な取り組みが必要であると考えたからです。



集している2年間のプログラム(初級CST)を基本的なプログラムとして実施し、大学院進学後も継続して通算4年間のプログラムに参加した場合にはこれまでと同様中級CSTとして認定されます。

なお、教育学部以外の中学校教諭(理科)の教職課程認定学部(理学部)に所属し、学生CST養成プログラムの小学校コースへの参加を希望する学生は、2年次にCST副専攻コースの履修を申請して認められることや教育学研究科へ進学することを前提として、各自で小学校教員の免許を取得する必要があります。プログラムへの参加は、他の学生と同じ3年次からになります。

【文責：山崎光洋】



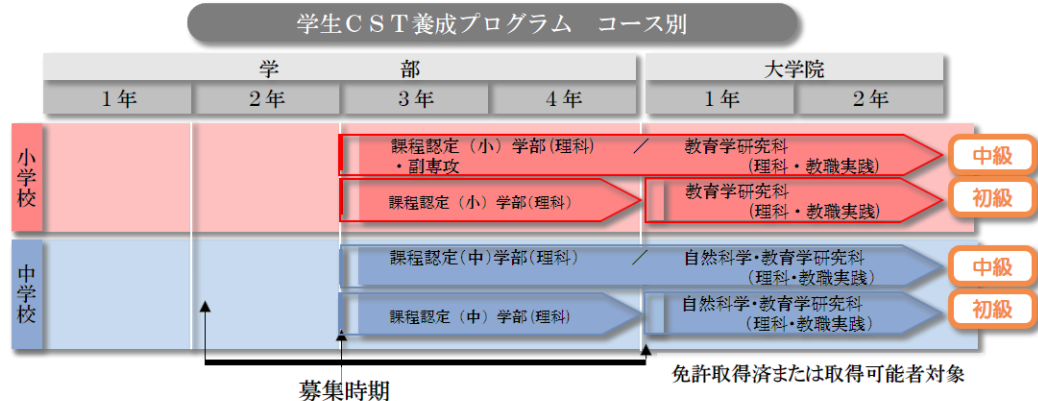
今号の主な記事

- 【特集】CSTの募集対象が変更されます
- 【報告】教師力養成講座(第4回)
- 【報告】CSTバイオマツツアー開催
- 【報告】母校訪問事後報告
- 【報告】合同連携協定会議開催
- 【報告】教職相談室の移転
- 【連載】教員採用試験のツボ その十八「教職相談室で先輩の受験体験記を見よう」
- 【連載】教員採用試験受験記：景山翼さん(教育学部)
- 【連載】「教員リレーエッセイ」教職コラボ部門 橋本 拓治 教授(特任)
- 【報告】センターHPリニューアル
- 【告知】教師教育開発センター紀要について
- 【告知】県・市との合同シンポジウム
- 【掲示板】新採情報・ボランティア情報

2 募集対象の変更

これまで理工系学部を対象に募集を行ってきた学生CST養成プログラムですが、小・中学校教諭の教職課程認定学部以外の学生は、仮に大学院に進学しても小・中学校教員の免許を取得することが容易でないことや、大学院への進学ができなくなった場合に免許取得ができなくなってしまう恐れがあることを踏まえ、平成28年度の募集から小・中学校教諭の教職課程認定学部以外に所属する学生に対する募集を行わないことにしました。

今後は、平成27年度から小・中学校教諭の教職課程認定学部の3年次生を対象に募



(※1) 一定の条件を満たせば、大学院2年間で中級CSTに認定される場合があります。
 (※2) CST副専攻コースを履修する必要のある小学校コースを希望する中学校教諭課程認定学部の学生を対象とした募集は第2学年前期に行います。その他の学生に対しては、第3学年前期に応募します。
 (※3) 単位の取得状況・所属する研究室によっては、参加できないことがあります。
 (※4) CST養成プログラムは、免許の取得、大学院への進学を保障するものではありません。



第4回講座では、「学級経営」に焦点を当て、岡山市立宇野小学校安富瑞穂先生をお招きしました。学級で起きると想定される3つの事例をもとに、グループ演習を組み込んで指導のポイントを探りました。

教師が子どもができないことの背景を見定め学級の子どものを繋げることが、学級経営の大切な柱です。個別指導をきめ細かくすることには、教師にとっても子どもにとっても限界があります。そこで、教師は子どもに「みんなでやろう」という意識を持たせる支援を進めます。その方法は、学年や学級の実態に合わせていろいろあります。授業の流れを工夫する、心に伝わる声かけをする、学級やグループの目標を設定する、気づかなかった子どものよさや伸びに目を向ける、友達の力を生かす、保護者の力を借りる、これまでの積み重ねを生かすなどです。どんな工夫をするかは、教師が子どもの姿をしっかりと捉えて考えていきます。それができれば、子どもは自ら動くようになり、子どもの力は驚くほど大きな広がりを見せていきます。

明るい問いかけで参加者を見事に引き込んで講話を進められる先生の姿からも、指導技術や子どもへのはたらきかけ方など多くのことを学ばせていただきました。

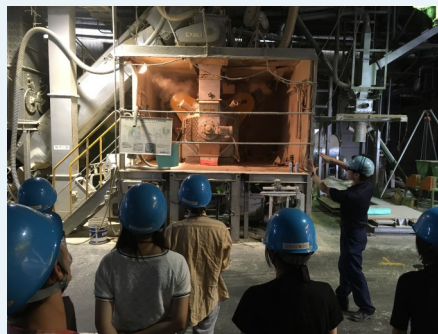
参加者のアンケートには、「クラスづくりは個へのはたらきかけも必要だが、子どもを繋ぐ全体へのはたらきかけ、個と集団を繋ぐことが大切なのだとわかった」「子どもが笑う、居心地の良いクラスが実際に作られていることが、今回の講座を通じて感じられた」「終始惹き付けられる魅力的なお話だった」などの感想がありました。

【文責：武藤幹夫】

◆教師力養成講座を録画したDVDは、教職相談室で視聴することができます。

CST基幹講座として、9/13に「地球を創る科学技術（真庭バイオマスツアー）」を実施しました。今回は、バイオマスタウンを推進している真庭市の活動を、実際に現地を視察して学びました。行政と企業が連携してバイオマス森林資源の物質・エネルギー循環を推進しており、各施設で専門の方々に解説をして頂きました。ESDの研究をされている教育学研究科の藤井浩樹教授にアレンジ・引率と解説と課題の設定をして頂きました。山林と林業の維持と製材企業と地域の施設を物質・エネルギー循環に組み込むことで、科学で地域社会を創っています。昨年には出力1万キロワットの真庭バイオマス発電所が稼働しましたが、バイオマス集積基地と連携して燃料供給の仕組みも整えています。更に、発電所に隣接した製材工場からは廃材をパイプラインを通して発電所に供給し、発電所の熱を製材工場の乾燥工程に利用するなど、物質・エネルギー循環に工夫があります。企業経営と社会貢献と科学・技術が一体化されて効果を生むために必要な要素は何なのかを学べる講座となりました。理科室だけで閉じない理科を伝えることのできるCST養成講座にはぴったりの講座でした。今回の講座には30名の学生と5名の大学教員が参加しました。

【文責：稲田佳彦】



全学教職課程履修者を対象とした母校訪問事後指導が10月に実施され、この事後指導をもって母校訪問の全ての内容を終えることができました。180名程度の学生が母校訪問を終えました。

事後指導は、グループワーク中心に実施されますが、私たちが事後指導において学生に期待していることは、母校訪問での自らの経験を意味づけ、価値づけるということです。1日の母校訪問で必ず実施すべきこととして課していることは授業観察と恩師へのインタビューの2点ですが、同じように授業観察やインタビューをしているようでも、そこで学べることは様々です。また、必ず経験すべき2点以外にも多様な経験を学生はしてきます。生徒たちの前で受験体験談や大学生活などについて話をする経験をしたという学生もいれば、授業準備に関連した仕事や授業以外の仕事など、教師の仕事を手伝うという経験をした学生もいます。こういった個々の経験の多様性をグループワークの中で学生同士がしっかりと共有しあい、現場の中で見たり体験したりしたことの価値づけをしていくことがこれから教職についてさらに学ぶことにつながっていくことを期待しています。

事後指導での学生の様子から、生徒を授業に引き付けるための工夫を見取ってきたり、クラスによって教え方を変えていることに気づいたり、教師のやりがいについて聞き取るなど、非常に良い経験をしてきたということを感じました。当日実施したアンケートの回答からも、母校訪問の取り組みを充実していたと捉えている学生が多いことや、母校訪問の目的が達成できたと感じている学生が多いことが窺えました。最後になりましたが、関係者の皆様にご協力いただきまして感謝申し上げます。

【文責：三島知剛】

合同連携協力会議開催

10月28日に岡山大学と岡山県教育委員会、岡山市教育委員会との合同連携協力会議が岡山大学で開催され、教員の養成や研修など三者が連携して取り組む課題等について協議が行われました。まず、「教員として求められる資質・能力を身に付けた人材育成と人材を確保するための連携の在り方」については、「特別支援教育の充実」「小学校及び中学校英語科教員の育成」「校種間連携の充実」「教員として優れた人材の育成と確保」の4つの柱で、現状や対策を協議し、三者で連携して取組を進めていくことが確認されました。次に、「岡山大学大学院教育学研究科の改革」と「教育職員免許法改正に伴う新しい教員養成カリキュラム」については、岡山大学からの趣旨説明の後、意見交換が行われ、三者で認識を共有することができました。最後に、「今後の連携協力会議の在り方」については、より効果的な会議となるよう、連携協力会議と専門部会の位置づけを明確にし、県と大学、市と大学、三者合同の連携協力会議を毎年それぞれ1回開催することが合意されました。今年度も、三者が同じ場所、同じ時間、同じ内容を共有することで、大変有意義な会議になりました。



【文責：今井康好】

教職相談室移転について

教育学部講義棟の工事に伴い、教職相談室は本館に一時移転しています。部屋は少し狭くなりましたが、必要な書籍・DVDや採用試験資料はこれまでと同じように利用することができます。現在の相談室の概要についてお知らせします。

【場所】教育学部本館2階中央階段正面

【移転期間】平成29年3月まで

【利用時刻】*これまでと同じです。

午前 10:00~11:30

午後 13:30~17:00

(*水曜日は、午前のみ)

【今していること】

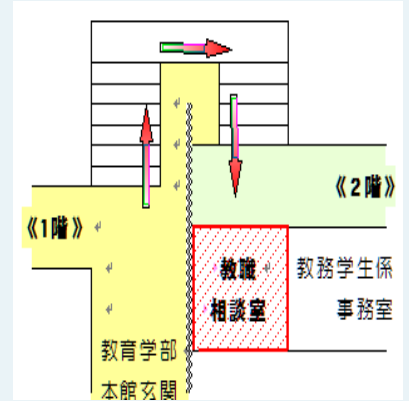
○小論文を中心とした採用試験対策

○教師力養成講座参加とDVD視聴

○書籍や雑誌の閲覧・貸出

○受験体験記の閲覧

○進路等についての相談 など



◆平成29年4月より、工事が終わった教育学部講義棟2階の西端に、教職相談室が設置されます。

【文責：武藤幹夫】

連載 教員採用試験のツボ その十八「教職相談室で先輩の受験体験記を見よう」

皆さんは、自分が受験しようとする都道府県等の教員採用試験に関する試験の内容や様子を具体的に把握していますか。

教職相談室には、市販の問題集だけでなく、様々な自治体の筆記試験、個人面接・集団面接、模擬授業等の流れや特徴、面接官の様子、質問内容等について詳細に記された資料があります。実は、これは先輩達が「教員採用試験体験記」として後輩の皆

さんのために記憶を駆使して書いてくれた大変貴重なお宝なのです。

例えば「集団面接では法規についての質問が多いのが特徴です。特に公務員の義務についてはよく質問されるようなので対策してください。」など、試験内容のポイントがたくさん書かれています。また、「個人面接等の控え室は飲食禁止なので、飲み物は外に出て飲みました。」「会場は駅から歩いて15分ほどですが、暑さと人混みで汗だくになりました。暑さ対策や水分補給が必要です。」など、受験経験者ならではのアドバイスも随所に盛り込まれています。

まずは、先輩達の心のこもった資料を見て、教員採用試験の具体的なイメージをもってから試験対策を始めることをお勧めします。

【文責：河内智美】

<教員採用試験受験記> 岡山県 小学校教諭 合格

教育学部 学校教育教員養成課程
小学校教育コース
景山 翼 さん

今考えると、これほど「教員になりたい」という夢について考えたことはなかったと思います。自分はなぜ教員になりたいのか、教員になるということはどういうことなのか、教員になって何がしたいのか。様々な希望が膨らむと同時に、本当に私がなれるのかという不安もありました。

そんな時、ふらっと立ち寄った場所が教職相談室でした。教員採用試験に向けて何をすれば良いのか、右も左も分かっていない私に教職相談室の先生方は丁寧に説明をしてくださいました。

それから、少し不安が生まれる度に教職相談室へと足を運び、友達や先生方とあれはどうか、これはどうかと議論を交わすことで今まで大まかにしか考えていなかった自分の理想の教員像を明らかにしていくことができました。

今、私は幼稚園児の頃からずっと憧れてきた教員になろうとしています。友達と、先生方と話すことで明確にした現在の自分の熱い思いを胸に、子どもたちと向き合っていこうと思います。

情報掲示板

ここでは最新の情報の一部を掲載しています。さらに詳しい情報や最新の情報は掲示板等をご覧ください。

教員・講師等募集情報

- おかやま山陽高等学校 常勤講師募集
- 愛知県教育・スポーツ振興財団 教員人材銀行登録申込受付
- 岐阜県教育委員会 岐阜県教育人材バンク登録申込受付
- 大阪府教育委員会 講師希望者登録申込受付
- 学校法人益田永島学園 明誠高等学校 常勤講師募集
- 滋賀県公立学校 臨時講師等募集
- 福岡教育事務所 臨時教員登録申請受付
- 埼玉県上尾市立中学校臨時教員募集
- 愛光中学・高等学校 教諭等募集
- 西南女学院中学校・高等学校 常勤講師募集
- 福岡大学附属大濠中学校・高等学校 常勤講師募集

スクールボランティア募集情報

- 不登校の子どもたちの『居場所』事業（倉敷市教育委員会）
- 玉野市適応指導教室（わかば教室）（玉野市教育委員会）
- 学校支援ボランティア一覧（岡山市教育委員会）

連載

教員リレー・エッセイ「ゼンタングルアート」

教職コラボレーション部門 橋本 拓治 教授(特任)



私の後ろにある額の中の「夢」という文字は、勤務していた中学校の自閉・情緒障害の学級の生徒が文化祭の展示物として作成した作品です。「ゼンタングルアート」というそうで、「ゼン」は禅のことであり、ヨガや瞑想のように心をリラックスさせる方法の一つだそうです。太い文字の中が様々な緻密な模様で埋め尽くされています。展示されていた作品を見て感動した私に、「先生にあげる」といって後日持ってきてくれたものです。彼はこれを一晩で仕上げたそうで、他にもいくつかの作品を見せてくれました。こだわりが強すぎたり、折り合いをつけることが苦手だったりする面を持っている彼ですが、私などにはとても続けられない作業を、何時間も持続して取り組んだことを想像して感心したものです。

特別支援学級の担任は、「この子供は何が苦手なのか」について知っておかなくてはなりません。「何ができるのか、どのような能力をもっているのか」を知ることはもっと大切です。これは人を育てる上では当然のことなのですが、困る子供（教師にとって困る子供で一番困っているのは本人なのですが）を目の前にすると忘れがちなことであり、実は通常学級も含めすべての教育の場面でそうでなければならないのです。

すべての子供がそれぞれに優れたもの、その子供なりの価値あるものを持っています。しかし、大人が減点法で見ているのは、その価値ある物はいつまでも見いだされないままに朽ちてしまいます。引いた線からの距離で人間の価値を計るのではなく、個々のかけがえない価値を大事に見守ってくれる大人の存在が、子供の自己有用感を高め挑戦する意欲を喚起するのです。一枚の額ではありますが、人を育てる上で忘れてはならない大切なことを再確認させてくれた「夢」でした。



(作品拡大図)

教師教育開発センターHP リニューアル！

平成28年12月末をもちまして、現在、ご利用いただいております教師教育開発センターホームページを、岡山大学公式ホームページの直下に移行することになりました。大学公式ホームページと同様のデザインになりましたので、大学ホームページのリンクからアクセスされた方にもより見やすくなったのではないかと思います。移行後の掲載内容につきましては、現行のホームページをより分かりやすく改善したものであり、その見出しは、センターの各部門を紹介する「概要・活動紹介」、各部門の主たる業務である「全

学教職課程」「スクールボランティア」「教職相談室」「CST養成プログラム」に加え、「教員養成情報」の6項目としております。なお、「東山ランチ」につきましては「概要・活動紹介」に掲載しております。

今後も分かりやすい掲載内容にして参りますので、ご意見等ございましたら、教師教育開発センター事務室までお寄せください。

新ホームページURL：<http://www.okayama-u.ac.jp/user/cted/>

【文責：佐々木雅徳】

◆岡山市学校支援ボランティアシンポジウム

日にち：平成 29 年 2 月 18 日（土）

場 所：岡山大学一般教育棟B棟 B41講義室

ボランティア活動に関心のある方ならどなたでも大歓迎！

◆岡山県「教師への道」インターンシップシンポジウム

（兼「教師への道」研修第7日目）

日にち：平成 29 年 3 月 11 日（土）（予定）

場 所：岡山大学自然科学研究科棟大講義室

*参加対象…県内大学・大学院・短期大学の学生（なら誰でも）

（特に、次年度大学3年生、短期大学2年生となる学生）

★詳細は決まり次第センターホームページでお知らせします★

センター紀要（第7号）原稿募集のご案内

当センターでは、主に教師教育（教員養成教育、現職教育）及び教育実践をテーマとした実践的・理論的研究論文を、学内の先生方から広く公募します。

※今年度より、投稿申込をご連絡いただくことを取りやめ、原稿提出期限のみ設定しておりますので、ご留意願います。

■原稿提出期限：平成29年1月10日（火）必着

■原稿提出先：教師教育開発センター事務室（教育学部本館201室）

★投稿できる内容や投稿資格などの詳細はセンターホームページでご確認ください。

